編集後記

今年度の『ミクスト・ミューズ』が無事刊行に至ったことを、大変うれしく思います。私は 2022 年度に愛知芸大の音楽学コースに専任講師として着任いたしました。その前は、2006 年の学部入学から 2017 年の博士後期課程修了まで本学に在籍していた、いわば「県芸そだち」です。院生の頃には、年度末の恒例行事として『ミクスト・ミューズ』の執筆・編集に関わり、2013 年度の第 8 号では学生側の編集長も務めました。今回、再び編集に携わることができ、とても光栄に思います。ただ、10 年前の記憶はどこへやらで、実際の編集作業を担ってくださったのは、博士後期課程の村瀬優花さん、そして学部 4 年生の樋口萌音さん、山上千乃さんでした。また、予算面やスケジュール管理にあたっては、東谷護先生に助けていただきました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。

教員になって改めて、音楽学コースの最大の特長は「部署の小ささ」だと感じます。学生たちはゼミや中間発表などを通じ、互いや教員の「目線」を感じながら卒論・修論を仕上げていきます。これはなかなか大変なことだと思いますが、今年度の卒業生・修了生は決して手を抜くことなく、自分の中の問いと向き合っていました。新任ゆえの贔屓目でしょうか？その答えは、来年度以降の楽しみとします。（七條めぐみ）

今年度も無事に『ミクスト・ミューズ』を刊行できましたことを、大変嬉しく思います。お忙しいなか論文や報告をご寄稿くださった執筆者の皆様、表紙に作品をお寄せくださった小林英樹先生に、心より感謝申し上げます。

編集長を務めるのは今年で 3 回目となりましたが、まだまだ学ぶことが多く、大変良い経験になりました。東谷先生、七條先生、編集委員の樋口さん、山上さんには大いに助けていただきました。ありがとうございました。（村瀬優花）

今回、初めて『ミクスト・ミューズ』の編集に携わりました。作業は、分からないことが多く不安でしたが、村瀬先輩が丁寧に教えてくださったおかげで、無事に終えることができました。この場をお借りして、感謝申し上げます。伝統ある紀要の編集に携わることができ、光栄です。また、表紙絵や原稿をお寄せいただいた皆様にも御礼申し上げます。ありがとうございました。（樋口萌音）

今年度も編集委員を務めましたが、昨年度までとは違い、今回は原稿の執筆もさせていただきました。原稿執筆の経験を通して改めて、執筆の大変さや原稿のありがたさを感じることができました。『ミクスト・ミューズ』に関わってくださった、全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。（山上千乃）